児童一人一人に社会性を育み、「よりよい集団」をつくる指導の在り方
～「 協働」を目指す、情動を踏まえた社会的スキルの育成を通して～

いわき市立湯本第一小学校教諭　徳永 一夢

1　研究の趣旨

⑴　研究の意図

個人と集団の視点から、児童のよりよい発達を支援する指導・援助の在り方を明らかにすることを目的とし、以下の２つを目指して研究を進めた。

◆情動を踏まえた社会的スキルの育成◆協働する集団の育成

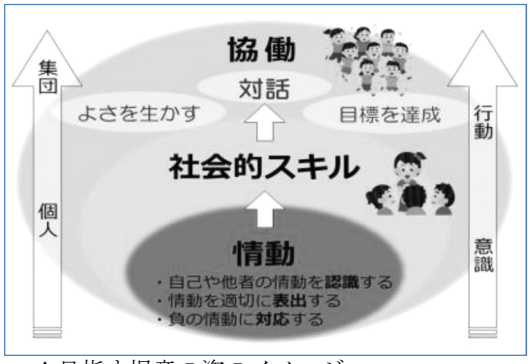
※情動：「行動に伴う感情」と捉える。感情と同義であるが、行動との関連を示すために本研究では情動を用いる。

※協働：「互いのよさを生かし関わり合いながら、集団で決めた目標を達成する過程」と捉え、対話を主に想定する。

⑵　目指す児童の姿

学級活動及び日常指導において、以下の視点に基づく指導が充実すれば、児童一人一人の社会性が育まれ、「協働」する「よりよい集団」をつくることができるであろう 。

【視点１】多角的・多面的な児童の実態把握
【視点２】個人の社会的スキルを高める、情動を踏まえた段階的な授業
【視点３】担任との連携による日常指導



▲目指す児童の姿のイメージ

【社会性の捉え】

社会性		社会的スキル
共感性	相手の気持ちを自分の身になって感じ取る心情	相手の気持ちを考えた働きかけ
集団参加能力	うまく人間関係をつくり、集団生活に適応する力	仲間の誘い方 仲間への入り方
コミュニケーション能力	自分の思いを伝え、相手の考えを理解する力	あたたかい言葉かけ 状況に応じた質問の仕方 上手な聴き方
アサーティブ	相手の立場を考えながら、自分を素直に表現する力	優しい頼み方 相手に配慮した断り方

2　研究の概要

３つの視点を支えるものは、担任間の指導・援助の視点の共有…指導・援助の場面や内容の具体化

【視点１】多角的・多面的な児童の実態把握

観察や聞き取り、質問紙調査等を組み合わせ、児童の実態を的確に捉えることで指導・援助に生かす。特に、第一年次の実践により個別の支援を要すると感じた児童について重点的に行った。

【視点２】個人の社会的スキルを高める、情動を踏まえた段階的な授業

技能としてのスキルの理解を高めるとともに、情動を意識させることで実践につなげることをねらった。また、「協働」に必要な社会的スキルに焦点化し、段階的に身に付くよう、学級活動の時間を活用した授業を構想した。

【視点３】担任との連携による日常指導

授業と日常生活をつなぎ、児童に学びを意識化させることをねらい、授業外での働きかけを行う。また、担任とも指導方針を共有し、担任による指導の継続も行う。

3　成果と今後の課題

⑴　成果

○　認め合う場を意図的に設け、どの児童にも認められる経験を保障することが大切である。
○　情動の視点から 社会的スキルを指導することで、行動への意味づけ・価値づけが促される。
○　日常的に小さな連携を行っていくことで、指導・援助の方針を共有化・具体化できる。

⑵　今後の課題

○　自己有用感につながる自己理解を促進する指導・援助の在り方を検討する。
　→　振り返りの場における気付きの言語化・共有化の促進
◎　教育活動全体を通した指導・援助に取り組む。
　→　教科等の場面における働きかけ